



麻布幼稚園だより

令和4年10月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

日中は、まだまだ暑かった夏の名残りを感じますが、爽やかな空、秋の雲、虫の音などに、季節が進んでいることを感じます。

気持ちのよい気候のこの時期、幼稚園では戸外遊びをたっぷり楽しんでいます。

年少3歳児は砂遊びが大好き。園庭の落ち葉や木の実でご馳走をつくっては、テーブルいっぱいにならんでいます。よく見ていると、立ったりしゃがんだり、テーブルを運んだりといった体の動きをたくさんしています。シャベルや容器を使う、小さなものをつまんで並べるといった細やかな手の動きも繰り返しています。滑り台や先生との追いかっこなど全身を使った動きを含め、本当によく動いています。



心地よい陽射しの下、年長児はリレーを楽しんでいます。負けると悔しくて泣いてしまう姿も見られましたが、それでも、「リレーしよう。」と友達を誘い合い、勝ったり負けたりしながら、毎日のように何回戦もしています。年長5歳児の白熱した様子を、憧れの眼差しで応援している4歳児年中組。ひとしきりリレーの勝負に満足した年長の子供たちに、リレーの仲間に入れてもらうととてもうれしそうに走っていました。

先日は、3歳児年少組の2人がリレーに入れてもらっていました。「やりたい！」という2人を拒むことなく、「じゃあ、順番で走るんだよ。」と、2人が一緒に走れるように列に入れてあげていました。2人はもちろん年長児のように走れる訳ではありませんが、一生懸命に走る2人を応援してあげる優しい年長組の子供たち。2人からバトンを受け継いだ後は、真剣勝負に戻りリレーを続けていました。

私が子供の頃は、近所の子供たちと家の近くで毎日遊ぶような時代でした。年齢の違う遊び集団の中で、年長の子が、「お豆ちゃんね。」などと、遊びの勝敗には関わらないけれど、小さな子も一緒に楽しめるような工夫がありました。そんなことを思い出しました。

それぞれの学年の担任は、発達に合わせたねらいをもち、日々の遊びが展開されるように援助をしています。その中では、異年齢の友達との関わりを通して経験することも大事な要素として捉えています。幼児期には、ふさわしい遊びや生活が展開されること、直接的な体験を通して得られる学びがあります。戸外で思い切り体を動かして遊ぶこと、お互いをよく知っている異年齢の友達と遊ぶことなど、以前は、さほど意識をしなくてもできた経験が、難しいこととなっている現代です。安全な園庭、異年齢の友達がいるという幼稚園の環境を生かし、それらの経験もしっかりとしていきたいと思えます。

幼児の安全について、日頃よりご理解・ご協力をいただきありがとうございます。子供たちの安全のため、改めて下記についてお願いいたします。

- ・正門横扉の出入りの際には、必ず扉を閉め、ロックがかかったことを確認してください。
- ・ジャバラ門を開けて出入りをした際には確実に閉じ、ハンドル上のレバーも回して閉めてください。
- ・降園時は、手をつなぐなどして、親子で正門を出てください。
- ・自転車を使用の際、大人は正門前で乗り降りをし、園内は押して移動をしてください。